

# 2017年度第1四半期 決算説明会

2017年7月31日  
株式会社村田製作所

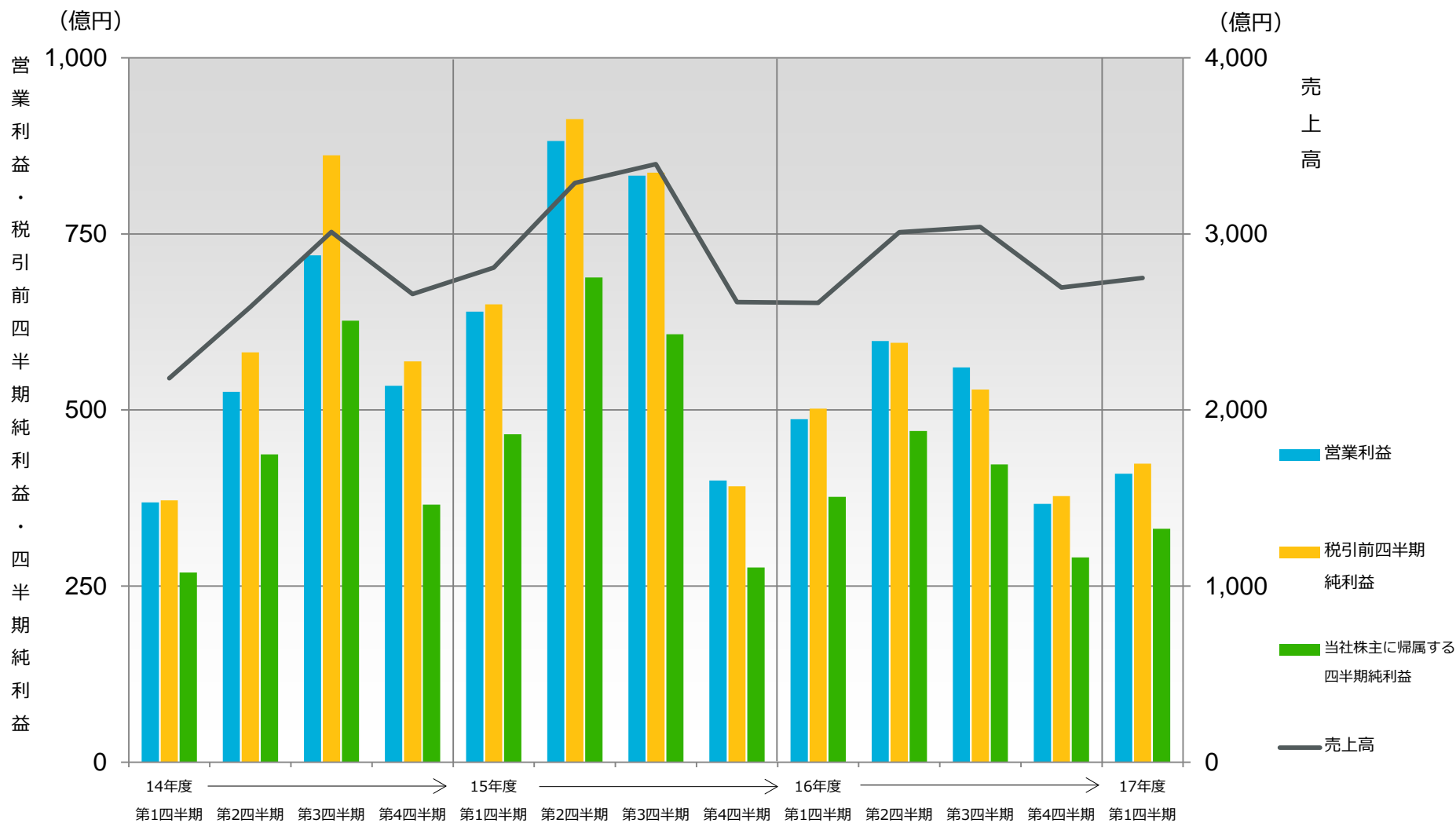


# 1. 2017年度 第1四半期業績概要

2017年4月～2017年6月  
第1四半期連結会計期間

- 売上高はスマートフォン新モデルに向けた需要の端境期であり通信向けは低調だったが、カーエレクトロニクス向け、代理店向けを中心に幅広い用途でMLCCなどのコンポーネント部品が堅調に推移し計画を上回った。
- 営業利益は第2四半期以降の新製品の生産拡大に向けた費用の増加や品種構成などの影響により、前年同期比16%の減少。営業利益率は同比3.8ポイント低下の14.9%。上期の業績予想に対する進捗率は38%。
- 一部の汎用品で代理店を中心に納期が先の受注が含まれているものの、スマートフォンの新モデル立ち上がりに向けて受注は順調に推移しており、注残は1,844億円と過去最高水準。

# 業績推移（四半期）

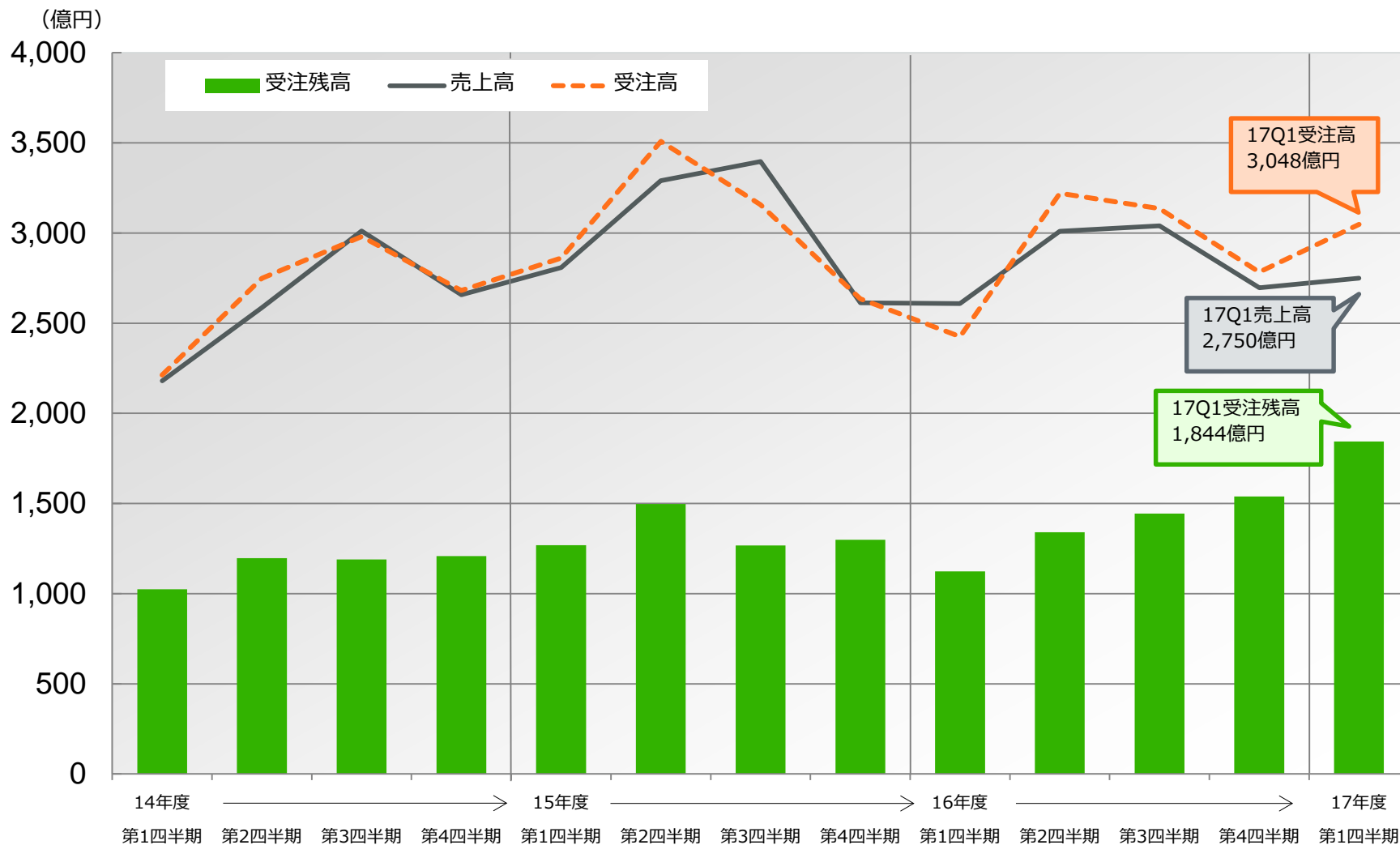


# 業績概況

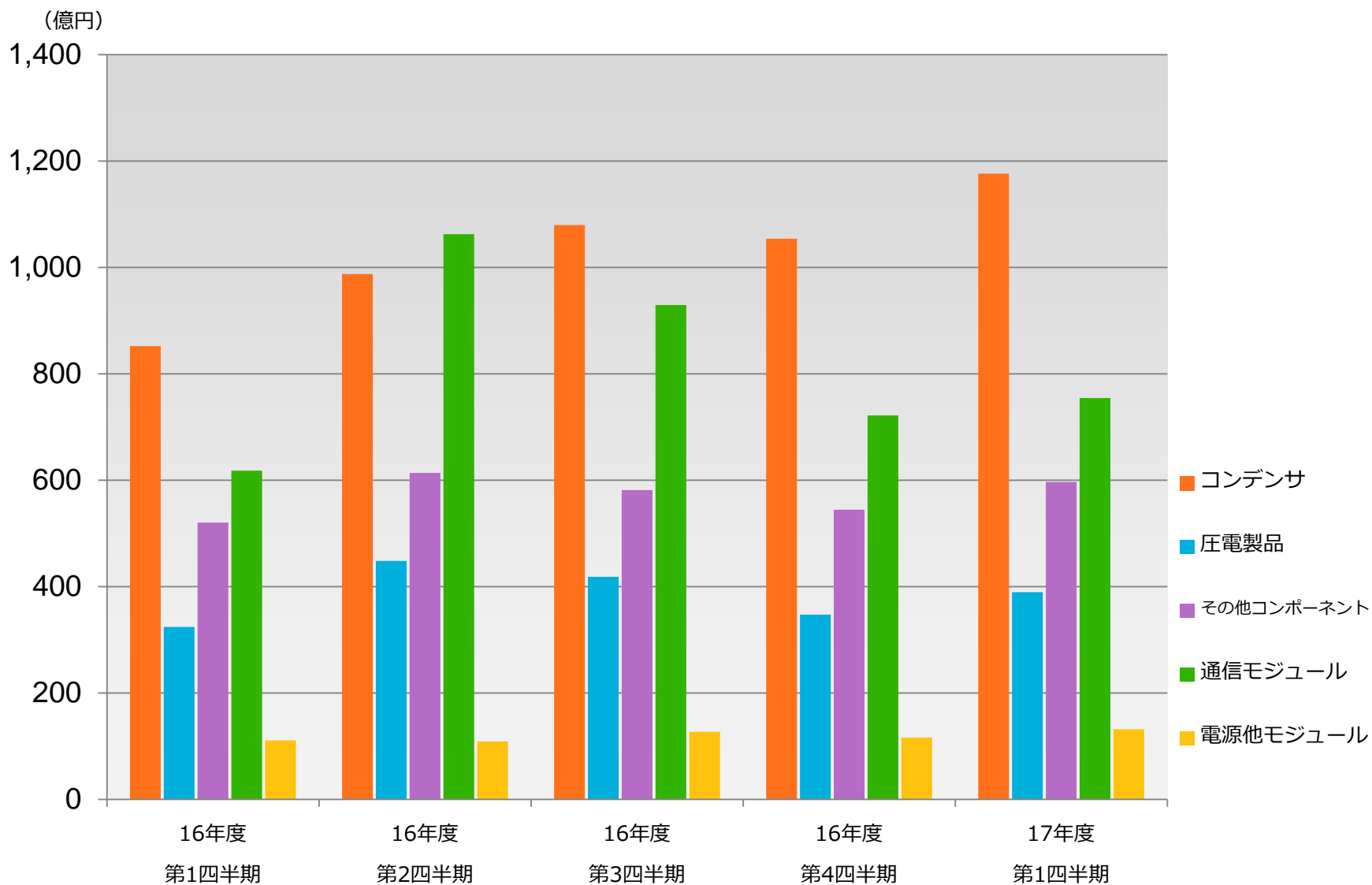
	2016年度 第1四半期		2016年度 第4四半期		2017年度 第1四半期		前年同期比 17Q1/16Q1		直近四半期比 17Q1/16Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	2,609	100.0	2,696	100.0	2,750	100.0	+140	+5.4	+54	+2.0
営業利益	487	18.7	367	13.6	409	14.9	▲78	▲15.9	+43	+11.7
税引前四半期純利益	502	19.2	378	14.0	424	15.4	▲78	▲15.6	+46	+12.2
当社株主に帰属する 四半期純利益	377	14.4	291	10.8	331	12.1	▲45	▲12.0	+41	+14.0

為替 (円/USD)	108.25	113.64	111.1
------------	--------	--------	-------

# 売上・受注・注残推移（四半期）



# 製品別受注高推移



# 製品別売上高

	2016年度 第1四半期		2016年度 第4四半期		2017年度 第1四半期		前年同期比 17Q1/16Q1		直近四半期比 17Q1/16Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	843	32.4	940	35.0	963	35.1	+121	+14.3	+23	+2.4
圧電製品	448	17.2	359	13.3	375	13.7	▲72	▲16.1	+16	+4.5
その他コンポーネント	508	19.5	530	19.7	546	19.9	+38	+7.5	+17	+3.1
通信モジュール	692	26.6	744	27.7	737	26.9	+45	+6.5	▲7	▲1.0
電源他モジュール	111	4.3	115	4.3	121	4.4	+10	+8.8	+6	+5.1
製品売上高計	2,601	100.0	2,689	100.0	2,743	100.0	+142	+5.4	+54	+2.0



# 製品別売上高概況

[2016年度第4四半期→2017年度第1四半期]

<p>コンデンサ (直近四半期比+ 2. 4%)</p>	<p>○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) スマートフォン向けはハイエンド新モデル立ち上がり前の需要の端境期で減少したものの、カーエレクトロニクス向け、PC向け、ゲーム機向けが好調に推移</p>
<p>圧電製品 (直近四半期比+ 4. 5%)</p>	<p>○表面波フィルタ 中国スマートフォン向けでの部品在庫調整の一巡により回復基調</p>
<p>その他コンポーネント (直近四半期比+ 3. 1%)</p>	<p>○コイル/E M I 除去フィルタ ゲーム機向け、PC向けで増加</p> <p>○コネクタ スマートフォン向けで当社製品採用モデルの生産量増加</p>
<p>通信モジュール (直近四半期比▲ 1. 0%)</p>	<p>▲樹脂多層基板 スマートフォン向けでハイエンド新モデル立ち上がり前の需要の端境期で減少</p> <p>○多層モジュール ハイエンドスマートフォンの春の新モデル向けが堅調</p>
<p>電源他モジュール (直近四半期比+ 5. 1%)</p>	<p>○電源 OA機器向け、アミューズメント向けで増加</p>

# 用途別売上高

	2016年度 第1四半期		2016年度 第4四半期		2017年度 第1四半期		前年同期比 17Q1/16Q1		直近四半期比 17Q1/16Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	107	4.1	120	4.5	137	5.0	+31	+28.7	+17	+14.4
通信	1,455	55.9	1,360	50.6	1,367	49.8	▲88	▲6.1	+7	+0.5
コンピュータ及び関連機器	378	14.5	453	16.8	464	16.9	+86	+22.8	+11	+2.5
カーエレクトロニクス	390	15.0	448	16.6	446	16.3	+56	+14.3	▲2	▲0.4
家電・その他	272	10.5	309	11.5	329	12.0	+57	+21.1	+20	+6.5
製品売上高計	2,601	100.0	2,689	100.0	2,743	100.0	+142	+5.4	+54	+2.0

(注) 当社推計値に基づいております

# 用途別売上高概況

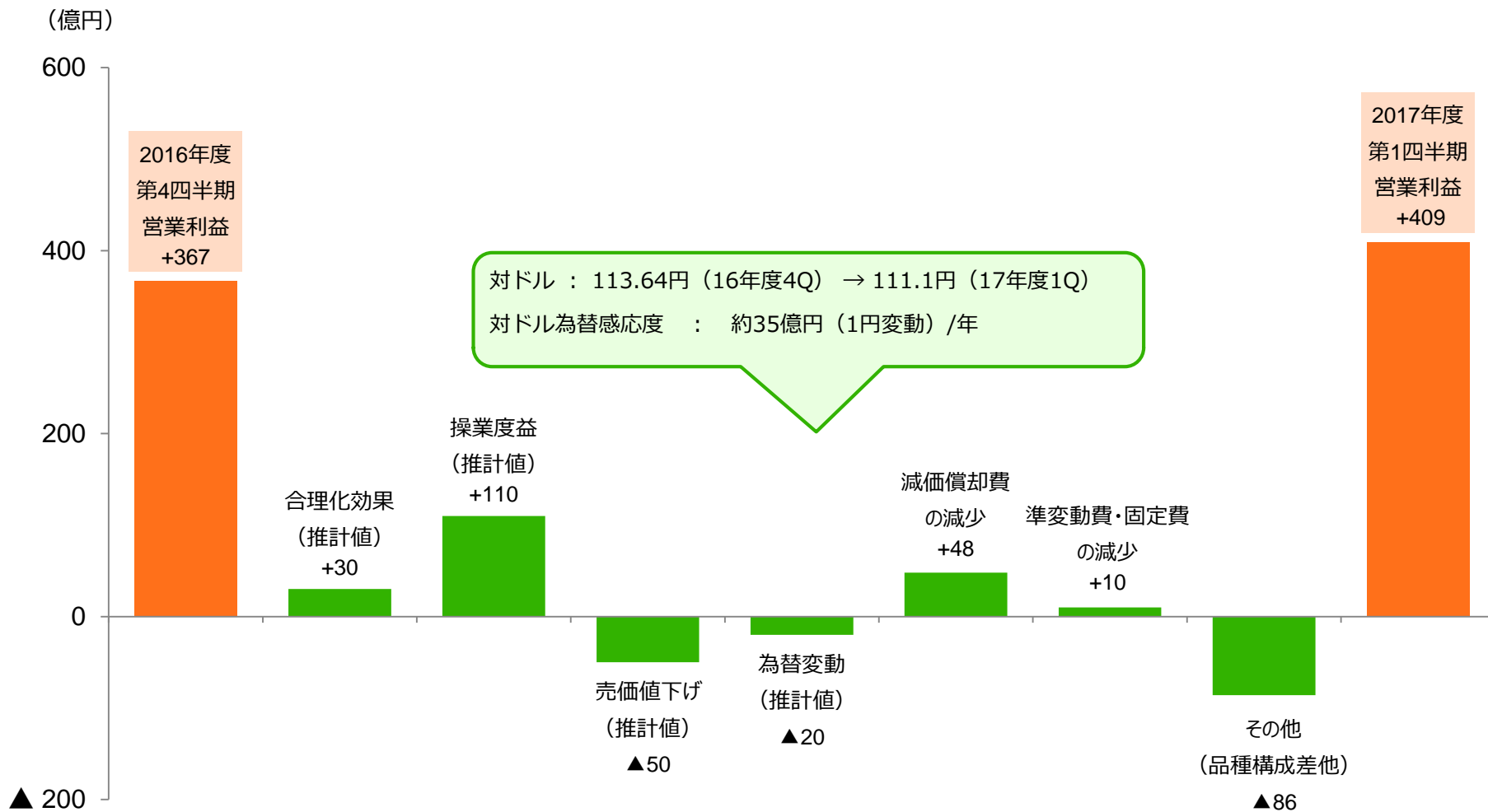
[2016年度第4四半期→2017年度第1四半期]

<p>AV (直近四半期比+14.4%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ゲーム機向けでコンデンサ、コイル、EMI除去フィルタが増加</li><li>○セットトップボックス向けでコンデンサ、コイルが増加</li></ul>
<p>通信 (直近四半期比+0.5%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ハイエンドスマートフォンの春の新モデル向けに多層モジュールが好調</li><li>○中国スマートフォン向けで表面波フィルタが部品在庫調整の一巡により回復基調</li><li>▲ハイエンドスマートフォンの新モデル立ち上がり前の需要の端境期の影響で、大容量コンデンサ、樹脂多層基板が減少</li></ul>
<p>コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比+2.5%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○タブレット端末向けで近距離無線通信モジュール、大容量コンデンサが増加</li><li>▲HDD向けでショックセンサ、アクチュエータが減少</li></ul>
<p>カーエレクトロニクス (直近四半期比▲0.4%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>▲カーオーディオ向けで電源が減少</li><li>○インフォテインメント向けに車載用近距離無線通信モジュールが増加</li><li>○電装化の進展により車載用コンデンサが増加</li></ul>

(注) 当社推計値に基づいております

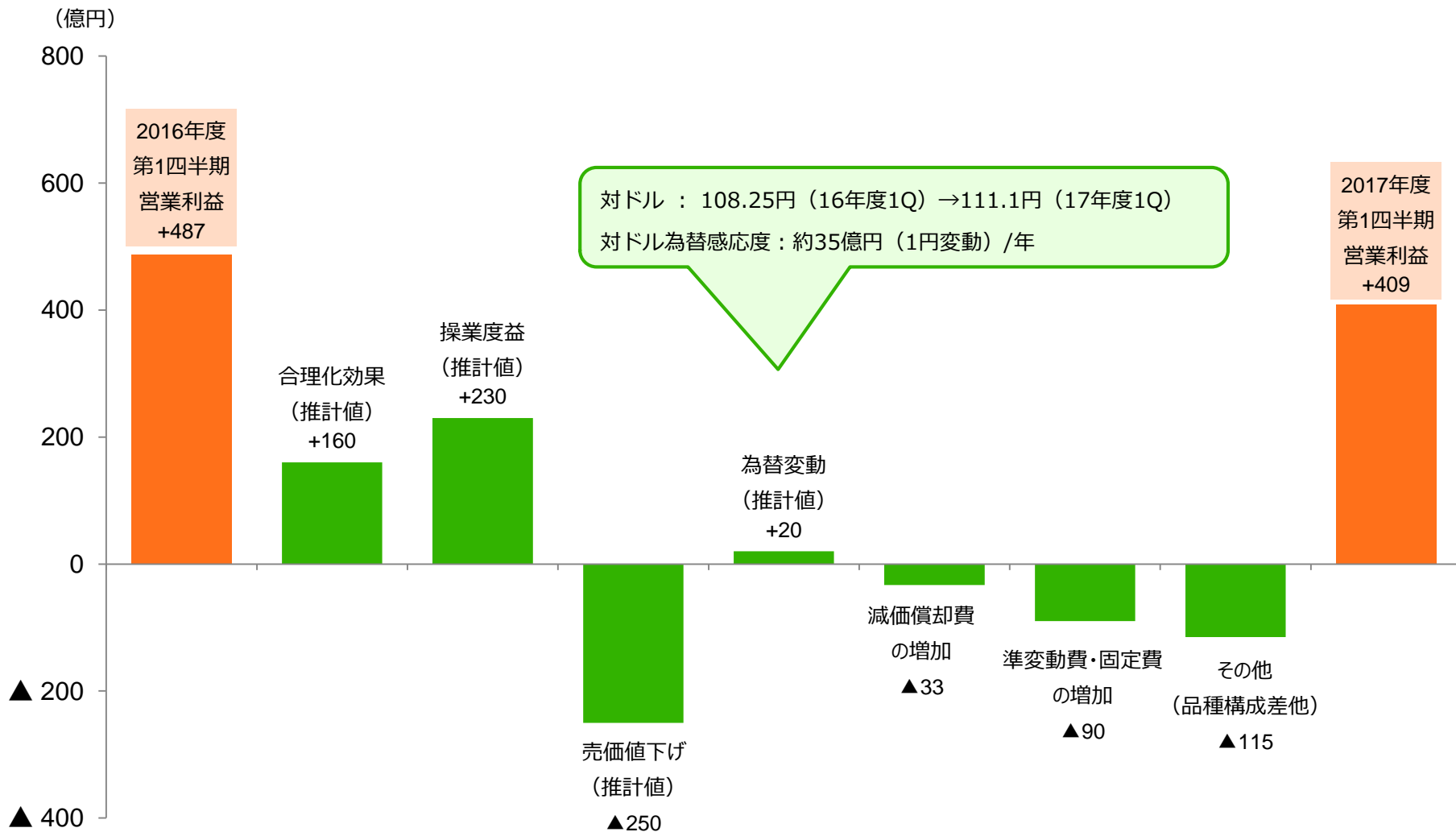
# 利益変動要因

[2016年度第4四半期→2017年度第1四半期]



# 利益変動要因

[2016年度第1四半期→2017年度第1四半期]



---

## 2. 2017年度 業績予想

(2017年4月～2018年3月)

# 2017年度 業績予想

	2016年度 実績		2017年度				増減	
			上期予想	下期予想	通期予想			
	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	伸率
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	11,355	100.0	6,000	6,250	12,250	100.0	+895	+7.9
営業利益	2,012	17.7	1,080	1,180	2,260	18.4	+248	+12.3
税引前当期純利益	2,004	17.6	1,100	1,200	2,300	18.8	+296	+14.8
当期純利益	1,561	13.7	840	900	1,740	14.2	+179	+11.5
為替 (円/USD)	108.42				108.00			

※ 4月公表値の見直しを行っておりません

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。



Thank you

